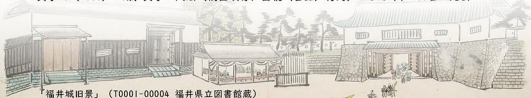


井原番右衛門 略年譜

- 慶長16 (1611) 1歳 鳥取城下で下石長左衛門の長子に生まれる 幼名は鍋次郎とも斎右衛門とも
- 元和 3 (1617) 7歳 父の藤堂家仕官に従って伊勢安濃津に移る のち藤堂高虎の子高重に仕える
- 寛永 8 (1631) 21歳 高重死去を受け、官を辞して引き籠る
- 寛永 9 (1632) 22歳 法印黒雄より義経流軍学の九代相統印証を授かる
- 寛永14 (1637) 27歳 江戸の曹洞宗青松寺にて神儒仏三道を修学、大名や旗本らに軍書を講読する
このころ、夢告により名を井原番右衛門と改める
- 寛永20 (1643) 33歳 福井藩主松平忠昌に知行300石で召し抱えられ、義経流軍学を指南する
- 慶安 2 (1649) 39歳 藩命により関東地方で忍之者を取り立て、藩の忍之者預りとなる
- 慶安 3 (1650) 40歳 江戸に呼ばれて、藩主光通と交わした問答を「無形臣問答書」にまとめる
- 承応 2 (1653) 43歳 光通の命で天王社の社殿破損を修繕する 知行100石加増
これより後、藩の軍帳は義経流によるものとされ、藩の御流儀となる
- 万治 1 (1658) 48歳 (坂井郡田谷村における臨濟宗大安寺創建に関与カ)
- 万治 2 (1659) 49歳 (光通による黒龍宮への社地寄附・社殿造営に関与カ)
- 万治 3 (1660) 50歳 光通の命で吉田郡福万村辺に新田塚を整備する
- 寛文10 (1670) 60歳 福井城再建の鉄初に関わる 翌年?新橋箱を城の多門櫓に納め置く
- 寛文12 (1672) 62歳 藩の武器蔵火消役となる
- 延宝 2 (1674) 64歳 光通死去の夜、各地の領民に光通蘇生を喜び声を出させて天地が震動する
- 延宝 3 (1675) 65歳 藩主昌親の命で天王社の祇園大祭を再興、以後井原邸が宿興所となる
- 延宝 4 (1676) 66歳 昌親の命で丸山山頂に白山弓箭の神を勧請、城郭守護の神とする
- 延宝 5 (1677) 67歳 藩の武器惣支配となる (→以後、武器支配は忍之者預りを兼務)
昌親の帰国御礼使者として將軍家綱に御目見、義経流について上聞に達す
昌親、狩野元昭に命じて、井原の肖像画を描かせる
- 延宝 6 (1678) 68歳 東福門院死去に伴う老中稲葉正則の上洛にあわせて京に遣わされる
- 延宝 7 (1679) 69歳 丸山に八角石や石井筒などを設置する
- 貞享 3 (1686) 76歳 貞享の大法(綱昌改易、昌親〈吉品〉再封)により半知200石 死去



「福井城旧景」(T0001-00004 福井県立図書館蔵)